

検査科便り 第7号

2017年12月発行



こんにちは、検査科です！
12月に入り、インフルエンザの流行期に入りました。
寒さも本格的になりましたが、うがい、手洗いをしっかりと、風邪の予防をしましょう！

今号では、正しい手洗いの方法と、7月から新しく導入された「嗅覚検査」について紹介をします。

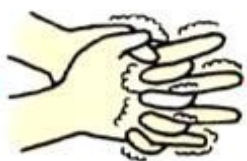
手を洗った後、蛇口を閉める時に直接手を触れないように、ペーパータオルを使ったりすると良いでしょう。手を拭くときも、使い捨てのペーパータオルの使用をお勧めします。



正しい手の洗い方



1)手をぬらして石けんを泡立てる



2)手を組むように指の間もていねいに



3)手のひらをひかくように



4)手首は握るように回しながら



5)水でよく洗い流す



6)きれいなハンカチ・タオルでふきとる

ニオイを感じにくいと思ったこと、ありませんか？



最近、においがわからなくなってきた・などの症状はありませんか？
人間の鼻の奥にある嗅細胞は、外部から入ってきた化学物質を読み取り、電気信号にして脳内に伝達します。
脳は、この信号を受け取ると、それを特定の「ニオイ」として認識するのです。

嗅覚になんらかの異常がおこることを嗅覚障害といいます。嗅覚の病気で、発生率が最も高いのが、副鼻腔炎やアレルギー性鼻炎といった鼻の病気ですが、ニオイは鼻から入った化学物質を脳で識別しているため、脳に外傷を受けた時や、脳内部に障害がおきた時にも、嗅覚に異常が発生することがあります。最近では、アルツハイマー病やパーキンソン病などの神経疾患が原因となって嗅覚に障害が出るという研究が進み、これらの病気の早期発見のためにも嗅覚が重要視されるようになってきました。

また、嗅覚も年を重ねるにつれ、視覚や聴覚といった他の感覚器と同様に衰えていきます。そのため、高齢者になるとガス漏れに気づきにくくなったり、腐った食べ物を食べてしまったなどといった、嗅覚の問題が二次被害につながるケースも多くなります。

嗅覚に異常を感じたら、たかがニオイと軽くとらえず、受診することが大切です

検査科では、7月より新たな検査として、嗅覚検査を導入しました。
検査時間は約30分です。渡されたニオイ紙を嗅いで答える、簡単な検査です。

バラエティに富んだ5種類のニオイで、各ニオイが7～8段階で構成されています。
検査を受ける方は、検査者から渡されたニオイ紙を嗅ぎます。
ニオイを感じた時と、どんなニオイか表現できた時の記録をします。

嗅覚検査を希望される方は、診察時に主治医にご相談ください。



しんとし健康セミナーのお知らせ

2018年2月14日 13:00～

西館3階カンファレンス室にて (参加無料)

「動脈硬化と血管年齢について」

みなさんのご参加をお待ちしています！